

平成23年度 決算説明書／事務事業評価シート

前年度課室名	文化振興課
課名	まちづくり推進課

予算	款	項	目	決算書	頁
	2	1	12	74	

目名
文化振興費

事務事業名称
文化振興事業

1. 概要

目的	多彩な芸術・文化交流を育み、市民が芸術に触れる機会の拡充に努め、主体的な市民の文化活動を支援し、内外に発信する	対象	市民等
事業概要	<p>○豊後大野市総合文化センター自主事業 市民に文化芸術鑑賞機会を提供するため、幅広い年代に向けた各種鑑賞事業を実施した。また、実行委員会が行う事業や市民が主体的に行う文化・芸術活動に対する支援を行い地域の文化や芸術の振興を図った。</p> <p>○朝倉文夫記念館自主事業 大分県内の作家による個展(3回)やグループ展(1回)、県内のアマチュア作家を対象にした美術コンクールの開催。朝倉文夫記念公園開園20周年記念特別展「朝倉文夫の世界」を開催し、朝倉文夫を顕彰するとともに多くの作品に触れる機会を提供した。 また、外に出る美術館事業で市内に出かけ朝倉文夫の紹介を実施した。</p> <p>○大分アジア彫刻展事業 第11回大分アジア彫刻展の作品公募を行い、第1次審査を大分県と共催で実施した。</p>		

臨／経	事業名	事業内容(主な経費等)	予算現額(千円)	決算額(千円)	財源内訳				評価
					国・県支出金	市債	その他	一般	
経常	総合文化センター自主事業	自主事業13回 共催事業3回 入場者数7,358人 展示会(6回)	委託料 25,759	23,645			5,600	18,045	3
経常	朝倉文夫記念館自主事業	需用費	7,261	7,150	3,351		1,667	2,132	3
経常	大分アジア彫刻展事業	大分アジア彫刻展 負担金補助 及び交付金	4,000	4,000				4,000	2
計			37,020	34,795	3,351	0	7,267	24,177	

2. 指標設定

成果指標	指標名	文化活動の活性化自主事業の数	目標年度	H27	指標の設定理由			
	数値	20回			総合評価/後期基本計画において、基本施策(5-2-2)の目標達成のための重点施策である			
活動指標	指標	a 総合文化センター自主事業の入場者数	b	朝倉記念公園鑑賞型事業の入館者数	c	朝倉参加型事業の参加者数	d	
	数値	目標 6,000人	目標	4,500人	目標	100人	目標	

3. 実績(上段・実績/下段・達成率)

成果指標名	単位	H21	H22	H23
文化活動の活性化自主事業の数	回	22 回	20 回	22 回
		110 %	100 %	110 %

活動指標名	単位	H21	H22	H23
a 総合文化センター自主事業の入場者数	人	6,633 人	5,364 人	7,490 人
		110.6 %	89.4 %	124.8 %
b 朝倉記念公園鑑賞型事業の入館者数	人	5,260 人	5,918 人	5,701 人
		116.9 %	131.5 %	126.6 %
c 朝倉参加型事業の参加者数	人	150 人	800 人	158 人
		150.0 %	800.0 %	158.0 %
	人			

4. 課題と対応

課題
指標の数値には、達成しているが公演のジャンルによって集客に差がある。
対応(改善点等)
ワークショップ参加者が出演できる舞台や多様な舞台芸術鑑賞機会の提供。気軽に参加や観賞ができる魅力ある展覧会を実施していく。集客には、市内ケーブルテレビや告知放送、チラシ・ポスター等で市民に周知を図る。

5. 事業費・・・H21～H23(決算額)、H24(予算現額)

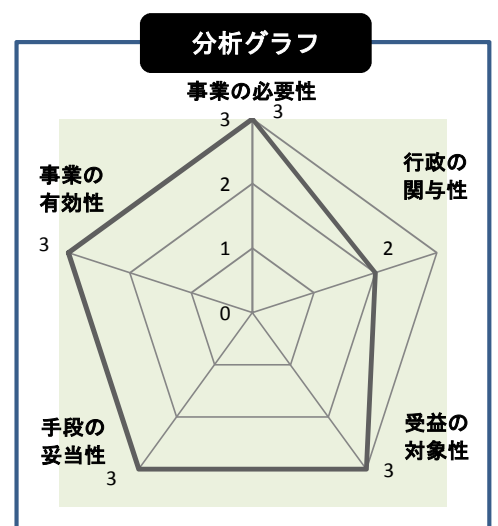
決算額(千円)		H21	H22	H23	H24
		33,630	37,581	34,795	35,383
うち経常経費		33,630	37,581	29,124	35,383
財源内訳	国費				
	県費			3,351	
	市債				
	その他	15,361	9,126	7,267	7,855
	一般財源	18,269	28,455	24,177	27,528
うち経常		18,269	28,455	22,957	27,528
事業費に係る人件費		13,141	13,490	8,600	8,588

6. H25年度予算の方向性

方向性
減額
理由
個別の事業費の見直しを行い経費の削減を行う

7. 担当課による分析

着眼点	分析	分析根拠
① 事業の必要性	必要性の再確認	3 市民に芸術に触れる機会を提供したり、制作活動を行っている市民に発表の場を提供するのは心豊かな生活を送る上で必要である
② 行政の関与性	責任領域の精査	2 民間によるサービスも可能であるが利益につながらないものや公益性のあるものには行政の関与が必要である
③ 受益の対象性	事業対象の確認	3 市民を対象にした事業である
④ 手段の妥当性	活動指標の分析	3 アマチュア、一般の美術展等の開催や実行委員会主体の事業や市民参加のワークショップは、適切な手段である。
⑤ 事業の有効性	成果指標の判断	3 自主事業回数や入場・入館者数は指標を達成している。しかし、来場者等は固定化の傾向にあり事業内容を検討し、工夫することが必要である。



8. 内部評価委員会評価(委員会評価)

事業の方向性	評価内容
継続	市民を巻き込んだ魅力ある事業を展開するとともに、引き続き、経営努力に努めること。